

# 令和元年度 伊万里市立黒川幼稚園評価結果

<b>1 園教育目標</b>
<p>☆ 『豊かな心を持ち、いきいきと活動する子どもを育成する』</p> <p>☆ 子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 明るく元気な子</li> <li>○ みんなと仲良くできる子</li> <li>○ 楽しく活動に打ち込める子</li> </ul> <p>☆ 黒川幼稚園スローガン 「友だち大好き！ 先生大好き！ 幼稚園大好き！」</p>
<b>2 本年度の重点目標</b>
<p>(1) 個に応じた支援の計画と実践 …… 一人ひとりのねらいを立て、支援の計画、実践を行う。</p> <p>(2) 豊かな心の醸成 …… 異年齢縦割り保育、家読の推進を図り、豊かな心の育成を目指す。</p> <p>(3) 幼保小連携 …… 保育園、小学校との交流を行い、幼保小の連携を図る。</p>

達成度 A：ほぼ達成できた  
B：概ね達成できた  
C：やや不十分である  
D：不十分である

## 3 目標・評価

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題	具体的な改善策・向上策
教育活動	○ 個に応じた指導・支援	・ 個に応じた支援の充実	・ 幼児一人一人の発達課題の把握と家庭と連携した指導・支援	・ 個に応じたねらいを立て、支援の計画、実践を図ると共に反省を支援に生かす。 ・ 保育者間の情報の共有と共通した支援 ・ 家庭訪問、学期ごとの懇談会を利用して家庭と連携した取り組みを行う。	A	・ 「すくすくシート」を作成し、学期末に一人一人についてまとめ、次の支援に生かした。 ・ 個人懇談や送迎時に、園児の様子を伝え、家庭との連携に努めた。	・ 一人一人に対して、明確なねらいをたてる。 ・ 登園時に、園児を視診したり保護者に尋ねたりして、その日の健康状態や精神状態を把握する。
	● 心づくり	・ 10項目中の重点視点の取り組み	○ 異年齢縦割り保育の実践  ○ 読み聞かせ・家読の推進 ・ 保護者参加型の保育の取り組みを充実させ、保護者の絵本活動への関心を高める  ・ 絵本の部屋の活用、整備	・ 全職員共通理解のもとに、異年齢が関わって、試したり工夫したりしながら遊べる環境の工夫をする。 ・ 縦割りグループによる給食の実施(月・火) ・ 月に1回の「未就園児とのふれあい保育」の実施  ・ 読み聞かせた本の記録や紹介 ・ 家読リレーの実践 ・ お薦めの本の紹介やクラスでの読み聞かせ参加への働きかけ ・ 黒川公民館、町内のお話会との交流  ・ 絵本の部屋の開放(14:00~15:00) ・ 本の貸し出しの推進 ・ 蔵書を増やす	A	・ 保育者自身が意識して、異年齢縦割り保育に取り組んだことで、年少児、年中児、年長児が入り混じって遊ぶ姿が見られた。 ・ 未就園児とのふれあい保育は、年10回実施し、平均6組の親子の参加があった。 ・ 家読カードに記入してもらった。たくさんのお絵本を読んでもらっていた。おすすめの本の紹介や感想も書いてもらった。 ・ 今年度は、寄付等で冊の絵本を購入することができた。	・ 更に、楽しく交流できるような遊びを工夫する。 ・ 幼児期の終わりまでに育ててほしい「10の姿」を考慮しながら保育指導を行う。 ・ 未就園児とのふれあい保育の回収を増やす。 ・ おすすめの本紹介や感想をお便りで他の家庭に知らせ、意識化を図る。 ・ 更に蔵書を増やす。
	● 健康・体づくり	○ 10項目中の重点視点の取組 ・ 外遊びを通じた体力づくりの推進 ・ けが、病気予防の指導  ○ 食育の充実	・ 遊びを通して遊ぶ楽しさ、ふれあう喜び、気づくおもしろさを体験させ体力づくりへつなげる。 ・ 保護者へ感染症の情報発信と予防の対策  ・ 個に応じた給食指導の徹底(少量完食)	・ 友達と遊びながら、気づいたり、工夫したり、試したりして遊びを発展させる環境設定の工夫 ・ 週1回の園外散歩の実施 ・ 感染症の情報を発信すると共に、うがいや手洗いの徹底に努める。 ・ 感染症予防のため、消毒液による床拭きの実施。  ・ 少量完食を通して食べる喜びを味わうようにする。	B	・ 外遊びは、意欲的に取り組んでいたが、更に遊び込める環境設定の工夫が必要である。 ・ 感染症はお知らせ黒板や小学校の保健便りを利用して、保護者に予防の仕方等を知らせた。 ・ 少量完食で指導を行い、完食	・ 今後も教材研究を重ねていくことで、子どもたちの遊びを充実させる。 ・ 散歩の場所等、子どもたちが楽しんで行けるような計画の見直しが必要である。 ・ 2次感染を防ぐための保護者への啓もうが、更に必要である。 ・ 給食時間中に、自分で完食ができるように指

			・親子給食会や食育研修会を通して保護者への啓発を図る。	・親子味噌作り、食育講演会、親子給食会、季節の野菜の栽培・収穫等により食の大切さを理解させる。		できる子どもが増えた。	導していく。
園 運 営	●幼・保・小 連携	・保育園(こども園)や小学校との連携の充実及び強化	・隣接した認定こども園や小学校との交流を深め、小学校との接続をなめらかにする。	・黒川小学校やたんぼぼ認定こども園との共通理解のもと、年間計画に基づいた計画的な交流の実施  ・日常的な交流の促進 ・職員同士の情報交換	B	・黒川小学校やたんぼぼ認定こども園との年間計画に基づいた交流は実施できた。 ・小学校とは、園児と小学生の日常的な交流や職員同士の情報交換ができた。 ・幼保小交流の保護者への情報発信が十分ではなかった。	・交流がマンネリ化してきているので、年間計画を見直す。  ・保護者への情報発信の工夫をする。
	○危機管理	○食べ物アレルギー等への対応	・職員研修会の場を設け、危機管理マニュアル等の理解を図る。  ・食べ物アレルギーの園児を把握し、家庭と連携を図り、事故防止に努める。	・危機管理マニュアルを全職員に配布し、職員で内容を確認しあう。  ・給食の献立表をチェックし、園児にアレルギー食材が含まれるものは食べさせないようにする。	A	・給食センターや保護者と連絡を取り、アレルギーを持つ園児にアレルギーの食材を食べさせないようにした。	・職員研修を通して、危機管理における共通理解を図る。  ・いろいろな場面を想定して、危機管理についてさらに取り組んでいきたい。  ・今後も保護者や給食センターと連絡を取り、アレルギー対策を行っていきたい。
	●業務改善・教職員の働き方改革	・業務効率化の推進	・会議や研修会の効率化を図る。	・会議等の終了時間の設定や資料の事前配布を確実に行う。 ・現行の制度をよく理解した上で、業務をより効率的なものに出来ないか見極めていく。 ・共有フォルダを利用して、データの共有化を行い、効率的な業務遂行に努める。	B	・会議時間短縮のため、資料の事前配布に努めた。 ・共有フォルダを利用したデータの共有化が十分ではなかった。	・より効率的に行えるように、業務を見直す。  ・共有フォルダを利用した情報の共有化を徹底する。

<h4>4 本年度のまとめ・次年度の取り組み</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全園児に「すくすくシート」（個別の指導計画）を作成することで、園児一人一人の具体的な指導目標や手だてに基づいた関わりができた。また、特別に支援を必要とする子どもの支援の在り方を共通理解し、専門機関等と連携を図りながら組織的に支援を行うことができた。</li> <li>・家読カードやおすすめの本紹介などの取り組みや絵本の叢書が増えたことにより、保護者の家読に対する関心が更に高まり、親子の触れ合いができた。</li> <li>・「豊かな心の醸成」ということで、「異年齢縦割り保育」を実施している。次年度は「未就園児とのふれあい保育」を増やし、更に思いやりの気持ちが育つようにしていく。また、3歳・4歳混合のクラス編成になるため、さらに「異年齢縦割り保育」の保育士実践の方法を工夫する。</li> <li>・子どもが自ら体を動かし、遊び込む環境構成を更に工夫する。</li> </ul>
--

●は県の共通評価項目 ○は市の共通評価項目 ◎は学校独自評価項目